

聖グレゴリオの家

「臨床音楽セラピスト養成科」 2020年 募集要項

Die berufsbegleitende Ausbildung “Klinische Musiktherapie“

教育方針

音楽療法の中でもとりわけプロフェッショナルな技法である心理療法的な“サイコダイナミック音楽療法 Psychodynamische Musiktherapie”のメソッドを中心に、多様なニーズに対応できる専門性の高い音楽療法士を育成する社会人コースです。この音楽療法は、欧州とくにドイツ語圏において健康保険が適用されるスタンダードな非薬物療法として広く社会に認知されています。

このコースの目標は、音楽家としてのアイデンティティを持ちながら心理療法士として心のケアに携わることのできるスペシャリストの育成です。コースの修了生は、カウンセリング技法と芸術の非言語的アプローチを活用する音楽療法士として医療、福祉、教育などの幅広い分野で活躍することが期待されます。さらに音楽療法を“学問”として研究する理論的見識を深めることも重視されます。

カリキュラム

ドイツ国立ハンブルグ音楽演劇大学音楽療法科との連携により、ドイツに長期留学することなく同等レベルの音楽療法士を日本で輩出する“心理療法的音楽療法士”の専門養成プログラムです。カリキュラム全120単位を3年6か月で履修します。^(注1)

セラピスト認定を希望する人は、受講生自身がクライアントになる“自己体験セラピー”の参加が必須となり、ドイツ音楽療法協会の規定により個人療法(50時間以上)、グループ療法(50時間以上)、スーパービジョン(50時間以上)の3タイプのトレーニングが課せられます。このうちグループ療法はカリキュラムに含まれますが、個人療法とスーパービジョンは通常授業とは別枠で通い、その参加料は自己負担となります(授業料に含まれません)。また、日本にはないメソッドのために海外で現場経験を得るための「ドイツ病院実習^(注2)」や海外教授陣による「ドイツ合宿研修(通訳付き)^(注2)」の受講を奨励します。

(注1) 在学期間の延長は可能

(注2) ドイツ病院実習にかかる実習費は基本的に無料(渡航費・滞在費等は自己負担)

(注3) ドイツ合宿研修(約5日間)は2020年3月開催(2年毎に開催予定、参加は任意で費用は別途必要)

【授業科目】 *科目は追加・変更される場合がございます

音楽心理療法の理論と実践、音楽療法応用分野、即興演習と聴取、精神分析と発達理論、心理療法の理論と実践、倫理、文献講読、研究方法と論文指導、ピアノ実習、音大卒ではない人の音楽理論、パーカッション、声を用いたセラピー、身体ワークと感性トレーニング、医学概論、精神医学、心療内科、実習指導、グループワーク、カウンセリング技法、音楽療法相互セラピー、国内および海外講師特別講座等

学年	曜日&時間	内容
1年目	<ul style="list-style-type: none">・通常授業：毎週金曜 9:15-17:30・精神医学講義：月1回月曜 9:15-15:10・集中講座：週末年数回	<ul style="list-style-type: none">・音楽療法、心理療法、医学、音楽の基礎を学ぶ・自己を見つめて気づきを深める
2年目	<ul style="list-style-type: none">・通常授業：毎週金曜 9:15-17:30・精神医学講義：月1回月曜 9:15-15:10・集中講座：週末年数回	<ul style="list-style-type: none">・各専門分野の理論と実践を通して分析力と感受性を磨く・セッションで起こる事象を理解する
3年目	<ul style="list-style-type: none">・通常授業：毎週金曜 9:15-17:30・集中講座：週末年数回	<ul style="list-style-type: none">・実践を通してクライアント理解を深め探求力を持つ・セラピストとしての技法と応用力を高める
最終学年6か月 (修了試験準備)	<ul style="list-style-type: none">・コロキウム：毎週金曜*コロキウム (colloquium) = 口頭発表と討論	<ul style="list-style-type: none">・自らのテーマを論文にまとめ卒業に向けて準備する・セラピストとして実践を検証する研究力を養う

*内容や時間等は諸事情により変更になる場合がございます

*カリキュラム外の「ドイツ語初級クラス」(金曜 18:00-19:30)は希望者受講可(費用別途)

修了証

全課程修了者には提携校ドイツ国立ハンブルグ音楽演劇大学 (Hochschule für Musik und Theater Hamburg) の名称を含む修了証および聖グレゴリオの家音楽セラピスト認定証が授与される予定です。将来的にこのコースがドイツ音楽療法協会 (Deutsche Musiktherapeutische Gesellschaft) の認定基準に達する場合、協会認定音楽療法士“Musiktherapeut/in DMtG”の資格取得が可能となります。

入学要項 【第2期生】

- 授業開始日：2020年4月3日（金）
- 会場：聖グレゴリオの家
- 課程：2学期制（前期4月～7月、後期9月～12月） *1月～3月は各自実習期間
- 通常授業：毎週金曜、月1回月曜、週末集中講座（年に数回）
- 課外授業：講習会・自己体験セラピー・ドイツ病院実習・ドイツ合宿研修（すべて別途料金）
- 学費：入学金 5万円（税別）
授業料 年額55万円（税別）*最終学年の半年間は授業料・設備費とも半額
設備費 年額5万円（税別）
- 定員：1学年約12名
- 入学資格：原則として以下の条件を満たす方
 - ① 大学卒業以上または2年以上の高等教育（短大・専門学校等）を修め就労経験のある方
 - ② 音楽的素養のある方（音楽で自己表現ができる方）
 - ③ ドイツの実習や研修に参加できる方が望ましい
 - ④ 個人療法・グループ療法の経験者が望ましい
- 入学テスト：2020年1月11日（土）
- 願書受付期間：2019年9月20日（金）～12月6日（金）まで（必着）

入学テスト

- テスト日：2020年1月11日（土）午前10時～ *願書出願順
- テスト料：無料
- テスト内容：

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 作文（30分）(2) 音楽演奏（楽器やジャンル不問・任意曲・2-3分程度）(3) 面接（10分程度） |
|--|

*面接の中で簡単な即興演奏をしていただく場合があります

入学説明会

2019年11月3日(日)午後2時より

場所：聖グレゴリオの家

申込方法：電話またはメールでお申込み下さい

入学申込方法

下記の書類を郵送または事務局窓口へ提出して下さい。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1) 入学申込書 | |
| 2) 履歴書(写真付き) | *市販の書式 |
| 3) 個人療法・グループ療法受講証明書 | *お持ちの方はテスト日面接の際にご提出下さい |

締切日：2019年12月6日(金)まで(必着)

提出先：〒203-0004

東京都東久留米市氷川台2-7-12

聖グレゴリオの家 臨床音楽セラピスト養成科入学係

Tel. : 042-474-8915

Fax. : 042-474-8832

<メイン講師>

内田博美（音楽療法）：ドイツ認定Diplom音楽療法士、国立音楽大学ピアノ科卒業、横浜国立大学大学院教育学研究科修了、ドイツ・ミュンスター国立大学音楽療法科修了。同大学院博士課程在学中に著作『音楽療法の本～もう一人の自分と出会う』（2011年アルク出版企画）を出版。2010年から東京を中心に講師およびセラピストとして深層心理的音楽療法の指導と普及にあたる。日本芸術療法学会、ドイツ音楽療法協会会員、ドイツ音楽療法センター代表

小宮暖（音楽療法）：米国認定音楽療法士（MT-BC）、分析的音楽療法士（AMT）、桐朋学園大学ピアノ科卒業、ニューヨーク大学大学院音楽療法科修士課程修了。2005年より分析的音楽療法の個人開業（現在：横浜）桐朋学園、国立音楽大学 非常勤講師 訳書：ケネス・ブルシア【編著】『音楽心理療法の力動』

鈴木琴栄（音楽療法）：米国認定音楽療法士（MT-BC）、分析的音楽療法士（AMT）、日本音楽療法学会認定音楽療法士、2016年1月までモロイ大学音楽学部音楽療法学科講師、コロンビア大学付属病院児童・精神科に在職。ニューヨーク大学大学院音楽療法学科修士課程修了。レズリー大学表現アーツ療法科博士課程に在籍中。NYノードフ・ロビンズ音楽療法センターにて、障がい児や脳卒中後の成人などを対象に実践を積み上級資格を取得後、育成クラスの助教を務める。2012年より成人を対象にした音楽心理療法や音楽療法士のためのスーパービジョンも行う。共著に『新しい芸術療法の流れクリエイティブ・アーツ・セラピー』、共訳書『音楽中心音楽療法』

真鍋かおり（音楽療法）：GMTC認定音楽療法士、洗足学園大学音楽学部音楽学科卒、横浜国立大学教育学部臨時教員養成課程修了。知的障害者入所施設、地域作業所勤務を経て現在は障害者生活介護施設に勤務。2012年よりドイツ音楽療法センターで学び、2017年GMTC認定音楽療法士資格取得

前田節子（心理療法）：MBACP(英国カウンセリング・サイコセラピー協会認定カウンセラー)、UKRCP(英国公認カウンセラー)、日本ゲシュタルト研究所にて長年ワークショップの通訳に従事した後、自らセラピストになるべく渡英。英国Place2Be（児童臨床）、マリリボンカウンセリング・センター（クライシス・リスナー及びカウンセラー）、ロンドン大学エグハム校（スチューデント・カウンセラー）の経験を積む。精神分析に基づく心理療法（サイコダイナミック・カウンセリング）を踏まえた上で催眠、ゲシュタルト療法、イメージ・ワークを取り入れた手法を使ったカウンセリング、カップルズ・カウンセリング、グループ・セラピー及びスーパービジョンを行う。

江夏亮（心理療法）：臨床心理士、公認心理師、日本ゲシュタルト療法学会スーパーバイザー、東京大学卒業後、日本鋼管（現NKK）中央研究所へ入社。新製品開発の功績により社長賞受賞。退職後東京ゲシュタルト研究所のチーフマネージャー、プログラム開発に従事。1990年渡米。トランスパーソナル心理学研究所を始めとしてアメリカ西海岸を中心に様々なトレーニングを受け、夢のセッションや講義も行う。1993年帰国後現在まで、心の健康相談室の代表を務め、個人セッション、グループワークを行う。心理学コンサルタントとしても幅広く講演、研修、雑誌の原稿執筆と活躍中。プロのカウンセラー

や心理学の専門家のためのセラピストとして信頼を集めている。現在はメンタルヘルスの企業研修も積極的に行う。2004年から2018年まで、米国の臨床心理学の名門カリフォルニア臨床心理大学院（略称CSPP）日本校の准教授及び実習ディレクターを兼務する。

牧野 纈（音楽）：1970年東京藝術大学卒業後、ドイツ国費交換留学生制度の奨学生としてハンブルク国立音楽大学に留学し、以後合計12年間ドイツに滞在する。この間にイタリア・セレーニョにおけるポツォーリ国際ピアノコンクールで銀賞受賞、フランス・コルマルにおける国際室内楽コンクールで第1位優勝を果たす。ソリストとしての演奏活動は日本国内のほか、ドイツを中心としてヨーロッパで多くのリサイタル、オーケストラとの共演など多く行っている。又室内楽の演奏活動も多く、ハンブルク・ピアノトリオの一員としての演奏など、弦楽器、管楽器、声楽、多種の組み合わせで行なっている。帰国後は東京藝術大学講師、洗足学園大学教授、愛知県立芸術大学教授として長く後進の指導にあたった。笈田光吉、北川正、金澤希伊子、安川加壽子、マックス・エッガー、コンラート・ハンゼン、ヴラド・ペルルミュテールの各教授に師事。

足立雅美（音楽）：南フロリダ大学学士課程ピアノパフォーマンス科卒業、フロリダ国際大学修士課程ピアノパフォーマンス科卒業。ピアノ教師として4歳から60代の幅広い世代を対象に個人レッスンを行う。日本へ帰国後、様々な職業経験を経て現在に至る。2014年9月よりドイツ音楽療法センターにて音楽療法を学ぶ。

松下映夫（医学）：医学博士。東北大学大学院理学研究科（修士）を修了した後、慶応大学医学部・専任講師（薬理学）、国立癌研究所（米国）・訪問博士研究員、東レ株式会社医薬研究所・研究室長、独立行政法人（現：国立研究開発法人水産研究教育機構）水産大学校・教授などの研究・教育職を経験し、定年退職後の現在は、関東リハビリテーション専門学校の非常勤講師として、また、千葉大学発ベンチャー企業である株式会社サーマスの最高顧問として、生理学の講義や技術指導（食品の栄養生理機能）を行う。

植村智子（精神医学）：精神科医。慶応義塾大学医学部卒業、井之頭病院精神科医長、精神保健福祉法精神保健指定医、日本精神神経学会専門医および指導医。

西脇純（研究方法）：聖グレゴリオの家講師。南山大学・同大学院を経て2002年ドイツ・在トリアー教皇庁認可神学部第三期課程修了（神学博士）。2000年より18年間南山大学に奉職、2018年4月より現職。専攻は西方カトリック典礼史、グレゴリオ聖歌。

相澤隆（研究方法）：西洋史学者。東京大学名誉教授。東大文学部西洋史学科卒、ドイツ・ヴュルツブルク国立大学留学を経て同大学院博士課程満期退学。1990年東大教養学部助教授、1996年同大学大学院総合文化研究科助教授、2000年より教授。2018年退職後に名誉教授就任。専門は中世ドイツ史。

<海外講師および協力講師>

Prof. Dr. Eckhard Weymann (音楽療法) : ハンブルグ国立音楽大学音楽療法科主任教授、ケルン国立音楽大学でピアノを学んだ後に音楽療法マスタークラスに参加。R. テュプカと共に形態学的音楽療法の創始者のひとり。臨床即興、理論構築、スーパービジョンの専門家。

Prof. Dr. Rosemarie Tüpker (音楽療法) : 元ミュンスター国立大学音楽療法科主任教授、ケルン国立音楽大学でピアノを学んだ後に音楽療法マスタークラスに参加。形態学的音楽療法創始者のひとりであり、ドイツ語圏音楽療法界では二大理論家の一人と言われている。

Prof. Karin Holzwarth (音楽療法) : ハンブルグ国立音楽大学音楽療法科教授、同大学でリトミック音楽教育を卒業後にオーストリアとドイツで音楽療法を学ぶ。精神科医療施設・緩和ケア・学校教育などの分野で音楽療法を実践。2010年から同大学で教鞭をとる。

キカート結佳 (音楽療法) : ドイツ認定Diplom音楽療法士、ドイツ音楽療法協会認定音楽療法士、心理療法専門ハイルプラクティカー、明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業、SRHハイデルベルク大学音楽療法科修了。在学中に障害者社会支援施設、発達障害児クリニックセンター、児童思春期精神病院での長期実習を経験。卒業後2009年よりハンブルク近郊の成人精神科病院 Heinrich Sengelmann Klinikenにて専属音楽療法士として勤務。また2012年ハンブルクにて音楽療法室こころを開室、個人療法とグループ療法を提供する。2013年より定期的にドイツ音楽療法センターにてワークショップや講演を行う。2018年3月より上記精神科病院に属するデイクリニックでもグループ療法を担当。その他、ドイツ語圏のアジア人音楽療法士のためのワークグループの責任者も担う。

鎌田菜美 (音楽療法) : ドイツ認定Diplom音楽療法士、声楽家。国立音楽大学声楽科を卒業後、ドイツのミュンスター国立大学音楽療法科入学。多田房代氏のアシスタントとして障害者施設の音楽療法に携わる。卒業後はミュンヘン郊外の精神科病院にて常勤音楽療法士として勤務、精神科及び心療内科をはじめ、高齢者病棟、依存症病棟、児童思春期精神科、司法精神科、脳神経科で音楽療法を行う。また、ミュンヘン日本人会の教養講座や日本国内でセミナーやワークショップを開催、即興演奏を軸とした音楽心理療法セッションや自己分析、声と心のつながりを探る「声のセミナー」には定評がある。ドイツではウクレレデュオ「coconami」のヴォーカルとして活躍しこれまで3枚のアルバムを発表、ドリス・デリエ監督の映画作品「フクシマ・モナムール」は女優として出演。

堀籠晶子 (医学) : ドイツ認定内科専門医。上智大学・大学院卒業。ミュンヘン大学・ミュンスター大学医学部卒業。医学博士 (Dr. med.)。北ドイツの市中病院、ミュンスター大学病院、ドイツ糖尿病センター (デュッセルドルフ大学) 勤務を経て、「健診センター.de」を開設。ドイツ在住の日本人に健康診断・精密検査を提供。

その他